

小学社会

編集の趣意と特色





社会科って、

楽しいな！

問題を自ら解決し、社会を創造していく力を育成する『小学社会』の特色

特色 1 問題解決的な学習の進め方が身につきます

- 身近な社会的事象との関わりの中から子どもたちが自ら問題を見だし、その解決に向けて考え合い、表現し合いながら主体的に追究していくことができる構成・展開にしています。
- 子どもたちが意欲を高めながら学習問題を追究していけるように、魅力的で価値のある導入教材を掲載しました。
- 追究の過程で子どもたちを適切に支援する技能や知識、設問などを配置し、より豊かで確実な学習成果に結びつけられるようにしました。

特色 2 知識や技能の確かな習得のもとに思考力・表現力を育みます

- 問題の解決に向けた追究を進めていくうえで必要となる基礎的・基本的な知識や技能を明確にし、子ども自身がそれらを確認・整理しながら身につけていくことができるようにしました。
- 必要な情報を集めたり、的確に読み取り解釈したり、効果的に表現したりする技能を、ステップアップを考慮しながらわかりやすく説明しています。
- 多様な表現活動を通して学んだことを共有化しながら、さらに思考を深めることができるようにしています。

特色 3 公民的資質の基礎を培い社会参画への意欲を高めます

- 文化財や文化遺産、先人の活躍に関わる内容を豊富に紹介し、それらが手がかりにして日本とその文化に対する理解を深め、愛情を育むことができるようにしました。
- 自分たちの「これから」について考え合う活動を通して、社会の変化に向き合い、主体的に参画していく力を育成します。
- 社会の成り立ちや人々の努力について理解を深め、「持続可能な社会」の実現に向けて考え、行動していくうえでの基礎を培うことができるようにしました。

特色 4 すべての子どもの学びを支えます

- だれもが読みやすく、学びやすい教科書にするために、紙面のデザインや色づかいを工夫しました。教科書の使い方もわかりやすく示しています。
- 地図やグラフなどの資料は、色覚の特性に配慮した「カラーユニバーサルデザイン」にもとづく配色と表現を採用しています。
- 地域や指導の実情に応じて、より適した教材を選択して活用することができるようにしています。

監修者のことば

あり た かず まさ
有田和正

東北福祉大学特任教授

教科書とは、生涯にわたって新しい知識や技能を創造し続けていく力の基礎を養うためのものです。したがって、教科書をしっかりと活用して学習することが大切です。



いし ひろ みつ
石弘光

一橋大学名誉教授

私たちを取り巻く社会の仕組みは、実に複雑です。このような社会を自分の問題として捉え進んで考えていきたいようになるような、学び甲斐のある新しい教科書を編修しました。



平成27年度版『小学社会』編集の趣意と特色

もくじ

- 編集の基本方針 3
- 特色1 問題解決的な学習の進め方が身につきます 4
- 特色2 知識や技能の確かな習得のもとに思考力・表現力を育みます 8
- 特色3 公民的資質の基礎を培い、社会参画への意欲を高めます 12
- 特色4 すべての子どもの学びを支えます 16
- 各学年の特色 3・4年 18
 - 5年 20
 - 6年 24
- 関連教材の紹介 28

平成27年度版『小学社会』

編集の基本方針

めざす
社会像

◆持続可能な社会

人間が尊重される平和な社会／公正で公平な社会／文化的な多様性を尊重する社会／将来世代に配慮する社会／生態系に配慮する社会

めざす
子ども像

◆知識基盤社会において必要な幅広い知識と柔軟な思考力を持ち、自ら問題を解決しながら、よりよく生きていこうとする子ども。

◆多様な文化・価値を受容し、持続可能な社会の創造に向けて、他の人々と協調しながら行動しようとする子ども。

教科書の
編集方針

◆地域と国土のすがた、社会を成り立たせているしくみとその来歴を、そこに生きる人々に共感しながら、確かにとらえることのできる教科書。

◆問題の解決に向けた主体的な追究や学び合いに効果的に活用することのできる教科書。

特色1 問題解決的な学習の進め方が身につく

特色2 知識や技能の確かな習得のもとに思考力・表現力を育む

特色3 公民的資質の基礎を培い、社会参画への意欲を高める

特色4 すべての子どもの学びを支える



問題解決的な学習の 進め方が身につきます

教科書を活用して、問題解決的な学習の進め方を効果的に身につけながら、学び合いの中で考える力や表現する力を育てていきます。

1 問題解決的な学習の進め方をわかりやすく例示

● 学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう

子どもたちが自ら問題を見だし、解決に向けて考え合い、表現し合いながら追究していく過程をわかりやすく示しています。くり返し立ち返って活用することで、学習の進め方を身につけることができます。

各学年の掲載ページ
3・4上 p.10-11
5上 p.21-22
6上 p.12-13

問題解決的な学習の過程を示しています

▼3・4下 p.8-9

学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう

つかむ これまでの学習や資料をもとに、気づいたことや疑問に思ったことを話し合い、学習問題をつくらう。

こうたさんたちは、自分たちの市で起きた交通事故の件数や、事故でけがをしたり、なくなったりした人の数のグラフを見て、気づいたことや疑問に思ったことを話し合いました。そして、話し合ったことをもとに、学習問題をつくりました。

学ぶ 警察署や地域の人々は、交通事故をふせぐために、どのようなことをしているのだろう。

調べる 学習問題を解決するために、地域を歩いたり、しぜつを見学したり、人から話をきいたりして、調べよう。

ポイント

- 資料について調べるのか、どんな話をききたいのかも、前もってノートやメモに書いておく。
- 調べたり、話をきいたりしながら、大切な事や疑問に思ったことをメモする。
- 地域を調べるときは、気づいたことを地域に書きこめ、発見になる場所の写真を撮る。

まとめる・深める 調べてわかったことや、考えたことを整理して、学習問題を解決しよう。そして、学習したことをいろいろな方法で表して、交流しよう。

ポイント

- 調べたことを整理して、ノートなどに書き出す。
- わかったことや、考えたことを、かいて書く。
- 自分の考えを話すときは、なぜそう考えたのかを伝える。
- 自分たちの考えや他の人の考えをよくきく。
- 自分の考えと同じところや、ちがうところなど、きく。
- 友だちや他の人の考えをきいて、自分はどう思ったか。

考え合い、表現し合う子どもたちのすがたを、学習の各過程で例示しました。

考え合い、表現し合う学習活動のポイントを示しました。

学習問題

2 一貫した追究を支える「問い」

● 学んでいこう

単元を貫く「問い」を確かめることができます。

学んでいこう

わたしたちの地域の安全は、だれが、どのように守っているのだろう。

4 自分たちの地域を歩くと、いろいろな発見や疑問が見つかる。

このたさんたちは、調べるために、自分たちの地域を歩いたり、しぜつを見学したり、人から話をきいたりして、調べよう。

「警察署や地域の人々は、交通事故をふせぐために、どのようなことをしているのだろう。」

「学校のまわりには、交通安全マップがあるのかな。」

「学校のまわりには、交通安全マップがあるのかな。」

「学校のまわりには、交通安全マップがあるのかな。」

このたさんたちは、自分たちの地域を、交通事故をふせぐために、どのようなことをしているのか、調べてみることにしました。

▲3・4下 p.5

● 学習問題

小単元を通して追究していく「問い」を明確に示しました。

学習問題

警察署や地域の人々は、交通事故をふせぐために、どのようなことをしているのだろう。

● 本時の問い

何を追究していくのか、学習のねらいを明確に示しました。

本時の問い

交通事故をふせぐために、学校のまわりには、どのようなしぜつがあるのだろう。

学校のまわりを調べよう

このたさんたちは、学校のまわりを歩いたり、しぜつを見学したり、人から話をきいたりして、調べよう。

「学校のまわりには、交通安全マップがあるのかな。」

「学校のまわりには、交通安全マップがあるのかな。」

「学校のまわりには、交通安全マップがあるのかな。」

▶3・4下 p.10

3 関心や意欲を喚起し、問題意識を引き出す導入教材

● 日常の体験に関わる話題から導入

身近なできごとから、社会的事象に目を向けていく問いを引き出します。



▲3・4下 p.40-41 給食の残りは、どこへ行くのだろう？

● 既習の内容との関わりから導入

これまで学習したこととの関わりから新たな問いを引き出します。



▲5上 p.108-109 食料生産では、さまざまな工業製品が使われていたね。

● ワイドで精緻なイラストの読み取りから導入

インパクトあるイラストの読み取りを通して、関心や疑問を引き出します。



▲3・4下 p.20-21 火災が広がるのをどうやって防ぐのだろう？

4 追究の過程を、わかりやすく、ていねいに支援

● 学びのてびき

大切な学習技能を確認・習得しながら、追究を進めていけるようにしています。▶特色2-⑨を参照



▲3・4下 p.6 グラフを読み取って考えよう

● キーワード

ポイントとなることばや概念を「キーワード」として明示し、追究を促します。▶特色2-①を参照



▲3・4下 p.11

● まとめる

学習問題の追究を通してわかったことを、自分のことばで表現します。▶特色2-⑩を参照



▶3・4下 p.19

特色 2

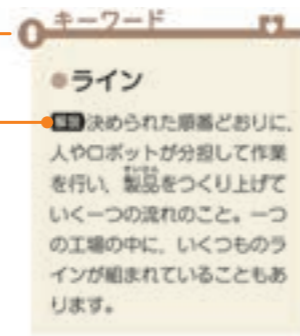
知識や技能の確かな習得のもとに 思考力・表現力を育みます

問題の解決に向けた追究を進めていくうえで不可欠の基礎的・基本的な知識や技能を、わかりやすく示しました。知識の整理と定着を確実に図るとともに、必要な情報を集め、的確に読み取り解釈する力や、自分の考えを表現する力を育てます。

1 問題解決に必要な知識を示した「キーワード」



● **キーワード**
学習の中で特に大切なことばを「キーワード」として明示しました。



難しい語句には「解説」を付し、理解を深められるようにしています。

▲5上 p.116
「キーワード」は原則として本文に位置づいています。

2 学習をふり返り整理・表現する「まとめる」

● **まとめる**
基礎的・基本的な知識の整理や定着を図り、それらを活用して、わかったことや考えたことを自分のことばで表現することを促します。



書き出しの文や例文 表現力の育成を支援します。

小単元の学習をふり返る「キーワード」の一覧

知識の整理や定着を図る設問

学習を通してわかったことを短文で表現するよう促す設問 「キーワード」を生かして論述するよう指導することもできます。

▲5上 p.131

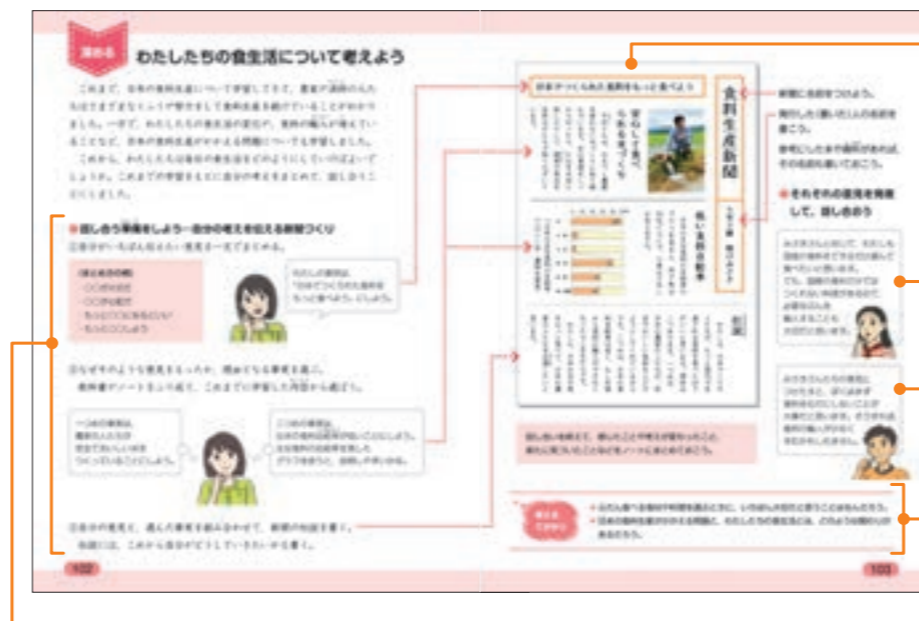
3 考え合い、表現し合う活動を多様に例示

学習の流れにそくした表現活動を通して知識や技能を活用していきます。



● **資料を示して発表し合う**

▲3・4下 p.37



● **新聞に表現して考え合う**

▶特色3-2を参照

目的に応じた効果的な表現の手法を例示しました。

言語活動を通した「思考の深まり」や「思考の変容」を、子どもの発言例として示しました。

内実豊かな言語活動を進めるための手順や留意点を、具体的に示しました。

▲5上 p.102-103

● **「人物の木」にまとめる**



▲6上 p.25

4 社会科の学び方の基礎・基本を学ぶ「わくわく！ 社会科ガイド」

子どもたちが社会科と初めて出会う3・4年には、学び方の基礎・基本についてガイドする特設ページを設けました。地域副読本で学習する際に併用しやすい内容です。

● 調べる

▼3・4上 p.122-123



● 記録する

▼3・4上 p.126-127



● 表現し合う

▼3・4上 p.128-129



● 地図を生かす

▼3・4上 p.130-131



5 問題解決に必要な技能を解説した「学びのてびき」

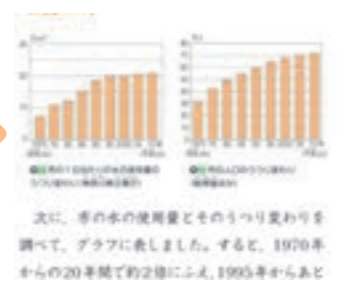
調べる計画の立て方、調べ方、資料の活用のしかた、表現のしかたなど、問題の解決に向けた追究に必要な技能について、ステップ・アップを考慮し、わかりやすく解説しました。

● グラフの初歩をつかむ



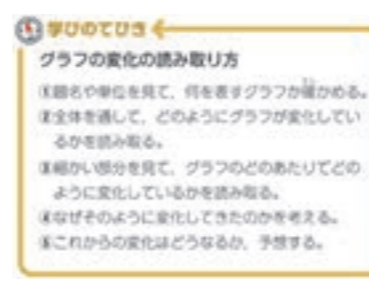
▲3・4上 p.53

● 二つのグラフの関連を考える

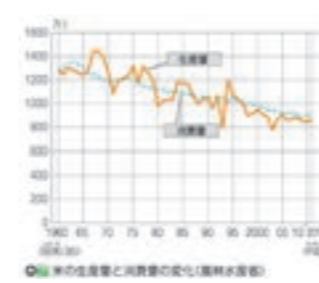


▲3・4下 p.61

● 変化をくわしく読み取る



▲5上 p.68



6 学習の整理に役立つ「さくいん」

各巻末に「さくいん」を掲載しました。学習のふり返りや整理などに活用できます。3・4上下は「キーワード」の一覧のかたちで掲載しています。

さくいん	ページ
西郷隆盛	93, 94, 100
坂本龍馬	93
鎮西	69, 90
薩長同盟	93

キーワードは太字で示しました。

▲6上 p.148

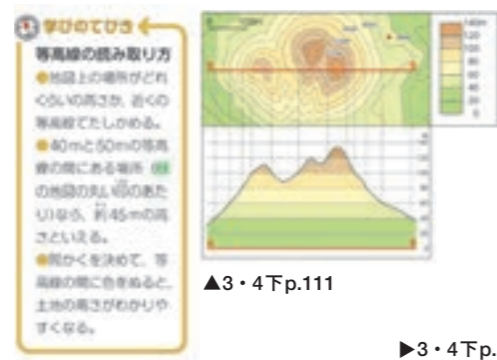
【グラフに関する技能の系統】

● 読み取り方の基礎をとらえる



▲3・4上 p.23

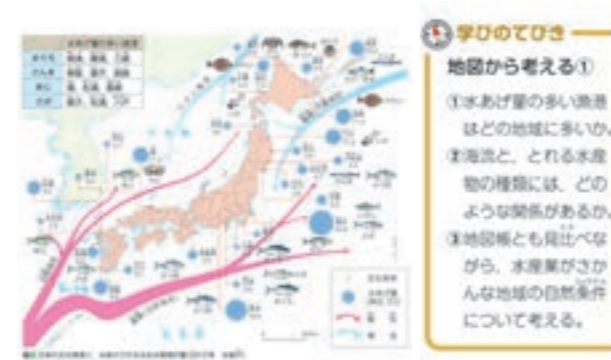
● 等高線や縮尺を活用する



▲3・4下 p.111

▶3・4下 p.153

● 主題地図を読み取る



▲5上 p.75

【地図に関する技能の系統】

公民的資質の基礎を培い、 社会参画への意欲を高めま す

歴史や社会との関わりを意識し、多面的・多角的に考えることができる力の育成をめざしました。よりよい地域・社会の創造に主体的に参画していこうとする意識・態度の涵養に資する工夫をしました。

1 伝統や文化を理解し、尊重する態度を育む教材

我が国の伝統や文化、それらの継承に努める人々を多様な事例で紹介しました。日本の伝統や文化に対する理解を深め、愛情や誇りの涵養を図ることができます。



日本の世界遺産
▲5下 p.62-63

震災からの復興に取り組む人々の心を結ぶ
地域の祭り(岩手県陸前高田市・けんか七夕)



● 祭りがむすぶ人々のきずな
2011年に起きた東日本大震災で大きなけがを受けた岩手県の陸前高田市では、力を合わせてまちを立て直そうという思いをこめ、昔から伝わる「けんか七夕」という祭りが行われています。祭りは、人と人のきずなをむすんだり、深めたりします。

● 「けんか七夕」の山車(2011年8月 岩手県陸前高田市)

▲3・4上p.105

中尊寺金色堂の修復 ▼6上 p.47



● 中尊寺金色堂の内部 編集 世界遺産
阿弥如来の極楽世界を表した建物です。

● 漆細工の修復作業 材料となる約850個の夜光貝は、はるばる沖縄から取り寄せられました。

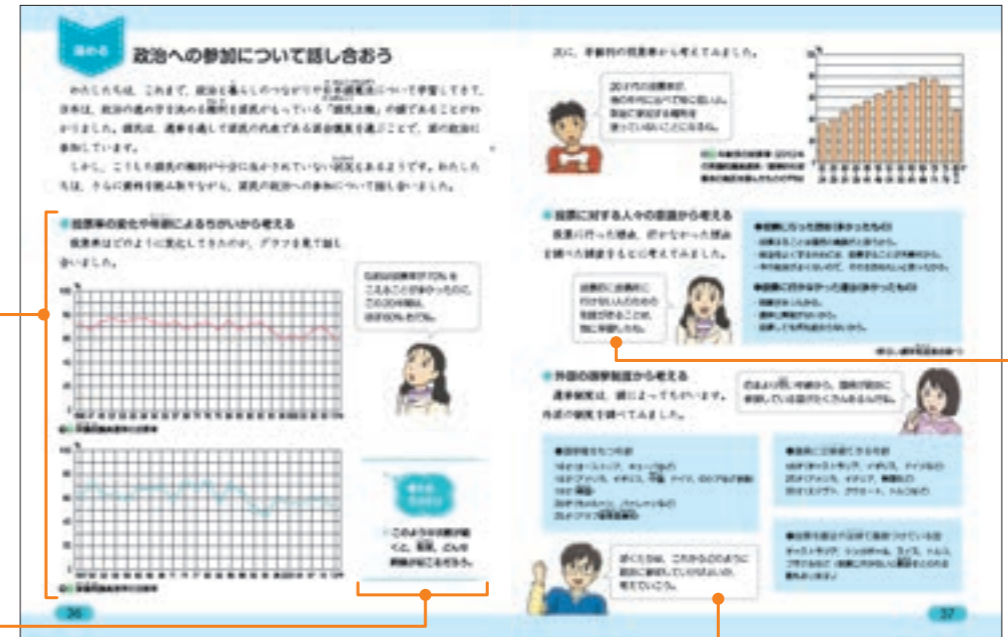


2 地域や社会、暮らしのこれからを考え合い、表現し合う「深める」

自分たちの暮らしの「これから」について、さらに考えを深めていく活動を位置づけました。地域や社会について主体的に考え、参画していく力の基礎を養います。

習得した知識の活用を促し、思考に深まりをもたらす効果的な資料

考えを深めていく際の観点を例示



▲6下 p.36-37 政治への参加について話し合おう

既習の知識の活用を促す発言例

社会参画に向けて追究を続けていこうとする意識の高まりを示した発言例



3・4年では発信型の表現活動を重視しました。

▲3・4下 p.36-37
地域の安全のこれからを考えよう

3 「持続可能な社会」について理解を深め、考える教材を多面的に紹介

地球規模で考え、地域から行動していくうえでの基礎を培うことができました。



●6下は、全体を通して「持続可能な社会」の視点から編集しました。▶6年の特色を参照

▲5下 p.30-31
感性に効果的に訴えるワイドな写真から、問題意識を引き出します。

▶6下 p.70-71
地球的課題としての環境問題について、豊富な資料をもとに理解を深めます。



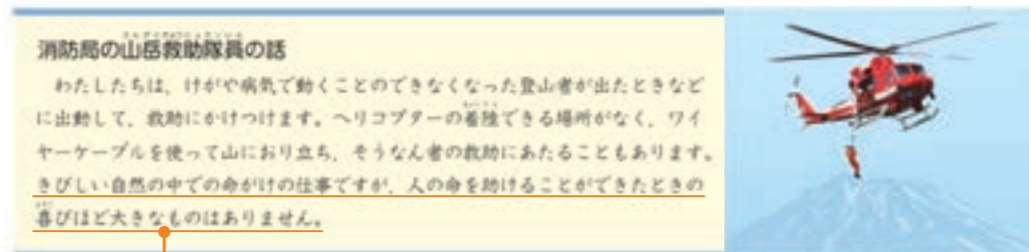
4 社会を支えている人々の姿から学ぶ

社会で働く人々への共感的な理解と、社会参画に向けた意識や態度の涵養を図ります。

●○○さんのお話

社会を支える人々の姿を、その思いにも触れながら臨場感豊かに紹介します。

キャリア教育としての位置づけも与えています。



▼3・4下 p.23
消防局の山岳救助隊員の話

5 防災に関わる内容の充実

社会の減災化や身の安全の確保、災害からの復興について、自分自身の問題として考えることのできる内容を、各学年に位置づけました。



▲5下 p.40-47
「自然災害の防止」の単元は、東日本大震災の教訓から学ぶ内容などを加えてリニューアルしました。同時にボリュームアップを図り、豊富な資料から学べるようにしています。

協力して災害に備える地域の取り組みを調べます。

▶3・4下 p.30-33

災害復旧と政治のはたらきの関わりを、岩手県釜石市の復旧・復興の過程を通して学びます。

▼6下 p.18-25



災害からの復興に尽力した先人のはたらきから学びます。

◀6上 p.116

特色 4

すべての子どもの 学びを支えます

1 発達において特別な教育的ニーズのある 子どもにも学びやすい紙面

● わかりやすくする工夫

「教科書の使い方」を解説するページを設け、各ページやコーナーの役割や活用のしかたを示しました。

3・4上下には、毎時の学習の内容と順序を3段階で簡潔に示しました。子どもが見通しをもって学習にのぞむことができます。

活動

- 地図を見て、市の広がりをつかめよう。
- わたしたちのまちがどこにあるのか、さがしてみよう。
- 市の形を、かいてたしかめよう。

● 読みやすくする工夫

折り返しの多い文章は、読みやすさを考慮して改行しています。

図版中のふりがなには、濁点と半濁点の区別が付きやすい「ユニバーサルフォント」を使用しています。



▶3・4上 p.28-29



▼3・4下 p.2-3

● 注目させる工夫

資料のネームにカタカナの記号を付しました。どの資料に注目すればよいのかを、簡潔に指示することができます。



安定的でパターン化された紙面レイアウトにしました。

コーナーの種類を整理・精選しました。

2 色覚の特性に配慮した カラーユニバーサルデザインにもとづく配色

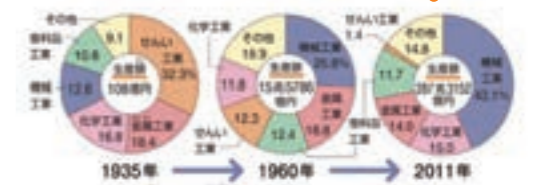
▼3・4 上p.44-45



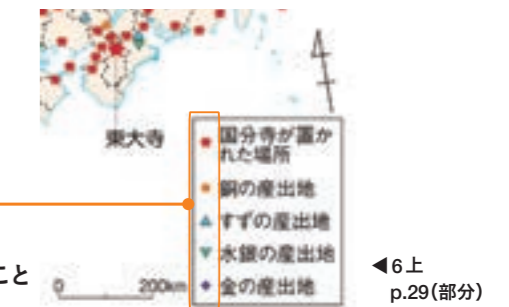
文字と資料の間隔を十分にとり、落ちついた色づかいにすることで、見やすさに配慮しています。

色だけでなく形からも区別することができるように工夫しています。

色覚特性の如何を問わず、区別が付きやすい配色にしています。



▲5上 p.143



▲6上 p.29(部分)

3 多様な学びを可能にする豊富な教材

地域や指導の実情に応じて、より適した教材を選んで活用することができるようになりました。

● せんたく

学習指導要領で、選択して取りあげることとされている内容を、複数の中から選んで学ぶことができます。

▼5上 p.38-39



せんたく あたがたい地域のくらし(29-30ページ)のかわりに、38-40ページをもとに学習することもできます。

選択して学習するページであることと選択のしかたを、わかりやすく示しています。

▼3・4下 p.134-135



● もっと知りたい

意欲や関心に応じて、さらに広く、深く学習するときに活用することができます。

※すべての子どもが一律に学習するものではありません。

3・4年の特色

1 興味や関心を喚起し、考える力を育むワイドなイラスト

社会科と初めて出会う3・4年には、社会的事象への興味や関心を喚起し、副読本を使った学習にも活用することのできるワイドなイラストの数々を掲載しました。楽しく学びながら、資料の読み取り方や考える力を身につけていきます。



● 社会科への期待感を高める導入部の「鳥瞰図」

子どもたちを魅力あふれる社会科の世界へと誘います。生活科での「点」と「線」の学習を、「面」へと広げていきます。

◀3・4上 p.4-5

● 読み取る要素を豊富に盛り込んだ「スーパーマーケットの様子」

消費者のニーズの多様性や、販売の様々な工夫を読み取ることのできる、精緻なイラストです。見学活動の前後に活用することで、学習の目的やまとめの観点がより明確になります。

▶3・4上 p.57



● 昔の暮らしにタイムスリップ! 「昔の農家のくらしの様子」

リアルなイラストは、昔の暮らしの様子を、そこに生きた人々の息づかいと共に伝えます。

◀3・4上 p.107



ほかに

- 3・4下 p.21 火災現場と消火活動の様子
- 3・4下 p.62-63 水が送られてくる道

2 地図への理解を効果的に促す航空写真との対比

地図と航空写真とを対比させながら読み取る場面を、適宜設けました。「地図は上空から見た土地の様子を図に表したものだ」という理解を効果的に促します。



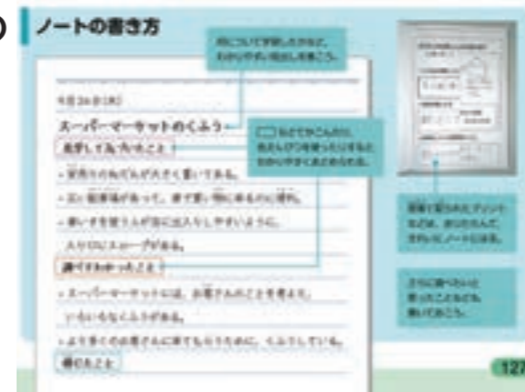
▲▶3・4上 22-25 学区の様子

3 ていねいで充実した学習に役立つ「学び方」

「学びのてびき」▶特色2-⑥を参照 や「わくわく!社会科ガイド」▶特色2-④を参照 のほか、随所で、学習方法や作例を示しています。副読本を使った学習にも効果的に活用することができます。

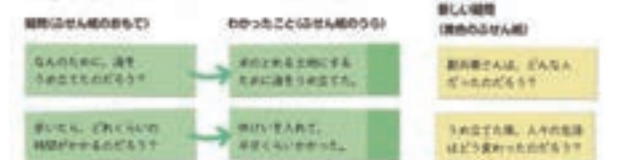
● ノートの書き方

▶3・4上 p.127



● 付箋を活用した問題の整理

調べてわかったことは、疑問を書いたふせん紙のうらに書きました。解決しない疑問や新しい疑問は、さらに調べることにしました。



▲3・4下 p.89

5年の特色

1 地域の実情に応じて 選んで学べる 「せんたく」

学習指導要領で選択して取りあげることとされている内容を、複数、扱っています。それらの内容をもとに、地域の実情に応じて学ぶことができます。

● 自然条件から見て特色ある地域



指導要領に示された選択の趣旨を、わかりやすく示しました。

ほかに

- 食料生産 水産業のさかな地域 ▶5上 p.74-87
- 野菜づくりのさかな地域 ▶5上 p.90-93
- 果物づくりのさかな地域 ▶5上 p.94
- 肉牛飼育のさかな地域 ▶5上 p.95

- 情報ネットワークの 教育・医療 ▶5下 p.12-17
- 有効な活用 福祉 ▶5下 p.20
- 防災 ▶5下 p.21



▲5上 p.24-29 あたたかい地域の暮らし



▲5上 p.38-43 寒い地域の暮らし



▲5上 p.30-35 高い土地の暮らし



▲5上 p.44-49 低い土地の暮らし

2 比較しながら学べる 「自然条件から見て特色ある地域」

自分たちの住む地域の気候や高さを書き込む作業ページを、折込に設けました。この折込を開いたままページをめくると、調べる地域の気候や高さと比較しながら学ぶことができます。比較することでそれぞれの「特色」についての理解が効果的に深まります。



▲5上 p.21 折込 自分たちの住む地域の気温と降水量を書き込む。

▲5上 p.24-25 見開き



▲5上 p.21 折込 自分たちの住む地域の土地の高さを書き込む。

▼5上 p.30-31 見開き

3 日本の産業の未来を前向きに考える 「食料生産」「工業生産」

日本の産業の特色についての理解を深め、その未来を前向きに考えていこうとする意識が涵養されるようにしました。安全性や品質の向上、アイデアの追求、生産過程における環境負荷軽減など「高付加価値化」に取り組む生産者の努力を積極的に紹介しています。

● 外国産米との競争に負けない生産者の取り組みと思い



農家の今井さんの話
みなさんに安心して米を買ってもらえるようにすることが大切です。そこで、生産者の名前や顔写真、農薬や化学肥料の使用をおさえた米であることを知らせる表示などを米づくりにのせたり、産地から消費者へ直接とどける産地直送を行ったりしています。国内の他の産地や安い外国産米との競争に負けないように、値段が高くても買ってもらえる、質のよいおいしい米の生産に取り組んでいます。

▲5上 p.70

● 技術とアイデアを生かしたものづくり



高い技術をほこる大田区のものづくり

▲5上 p.148-151

● えさを工夫したかんぱちの養殖



▶5上 p.85

● 湖内で作られた魚の養殖品にならなかつた魚の養殖品にせず、えさに混ぜています。魚のくさみがなくなり、栄養分も豊富になります。

● 様々な豊かさを提供する工業



● 楽器の製造とその歴史 ● ピアノの製造を創りだした大田区

心を豊かにする工業
工業には、わたしたちの暮らしを便利にしてくれるものづくりだけでなく、楽しみや誇りを感じさせるものづくりもたくさんあります。特別にできた楽器づくりもその一つです。特に大田区あたりには、楽器をつくる会社や工場が集まっています。これらの工場では、楽器の生産だけでなく、多くの人に楽器づくりに関心を持ってもらえるよう、楽器づくりの見学や体験なども行っています。

ピアノ工場の大石さんの話
一つのラインで、およそ1000通りもの、さまざまな大きさや種類のピアノをつくっています。それぞれにつけられた個性を見て、またがえないように作業していきます。ピアノは工業製品ですが、芸術作品でもあるという気持ちでつくっています。楽器のしくみや音のよさを、いつも追求しています。

▲5上 p.152-153

4 医療の事例で追究する 「情報ネットワークの有効な活用」

子どもに身近な「教育」（公共図書館）の事例から導入し、情報ネットワーク化の進展・定着が顕著な「医療」の事例を中心に位置づけました。わかりやすい資料をもとに、問題解決的に追究していくことができます。

● 情報ネットワークを活用する医療

▶5下 p.14-15



ネットワークのしくみをわかりやすく図示
学習がしくみの理解に終始してしまうことのないよう、イラストも用いてわかりやすく示しました。

過去と今を比較する視点
どのように便利になったのかがわかります。

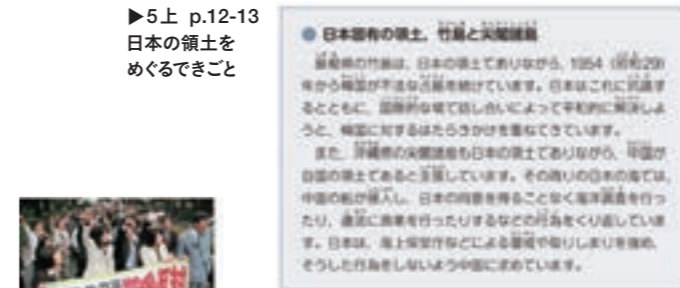
5 社会の「いま」をとらえ 「これから」を考える新しい資料

これからの社会を生きていくうえで知っておくべき、新しい重要なできごとを紹介しています。



▲5下 p.40 東日本大震災の教訓から学ぶ

▶5上 p.12-13
日本の領土をめぐるできごと



● 日本固有の領土、竹島と尖閣諸島
領土の竹島は、日本の領土でありながら、1954（昭和29）年から韓国が不法に占拠を続けています。日本はこれに抗議することにも、国際法に基づき話し合いによって平和的に解決しようとして、韓国に対するはたらきかけを続けています。
また、沖縄県の尖閣諸島も日本の領土でありながら、中国が日本の領土であると主張しています。その領土の日本の領土は、中国の船が侵入し、日本の領土を奪取することなく海洋資源を行ったり、漁業に漁獲を行ったりするなどの行為を繰り返しています。日本は、海上保安庁などによる監視や領土主権を主張、そのした行為をしないよう中国に求められています。



▲5上 p.140 貿易のあり方をめぐる様々な考え方



● 洪水で被害を受けた、タイにある日本の工場

● 2011年のタイの洪水
タイは日本の会社の工場が多く集まる国ですが、洪水によってこれらの工場が被害を受け、自動車やデジタルカメラなどの生産が一時的にストップしました。

▲5上 p.141 海外現地生産をめぐるリスクの問題

▼5下 p.8-9
自然災害とメディアの役割



● 被災地を助けた新聞・ラジオ
東日本大震災では、新聞社や放送局が被害を受けた地域にも多くありました。しかし、正確な情報を伝え、人々に少しでも安心してもらうように、被災地の現状や被災者の声やニーズを伝えるなどして新聞の発行を続ける努力をしました。また、災害のラジオが各地に届かれ、このスーパーマーケットが閉鎖しているから、どこの道が通行したかなど、生活に必要な情報を被災地へ届けることになりました。

6年の特色

1 問題解決的な歴史学習を支える絵画資料

じっくりと読み取ったり比較したりすることで、時代の変化や特色に対する追究意識が高まります。

▼6上 p.10-11
米づくりが広まったころの様子



◀6上 p.54-55
長篠の戦い

資料の読み取り方や考える観点を示しました。

▼6上 p.38-39 武士の館

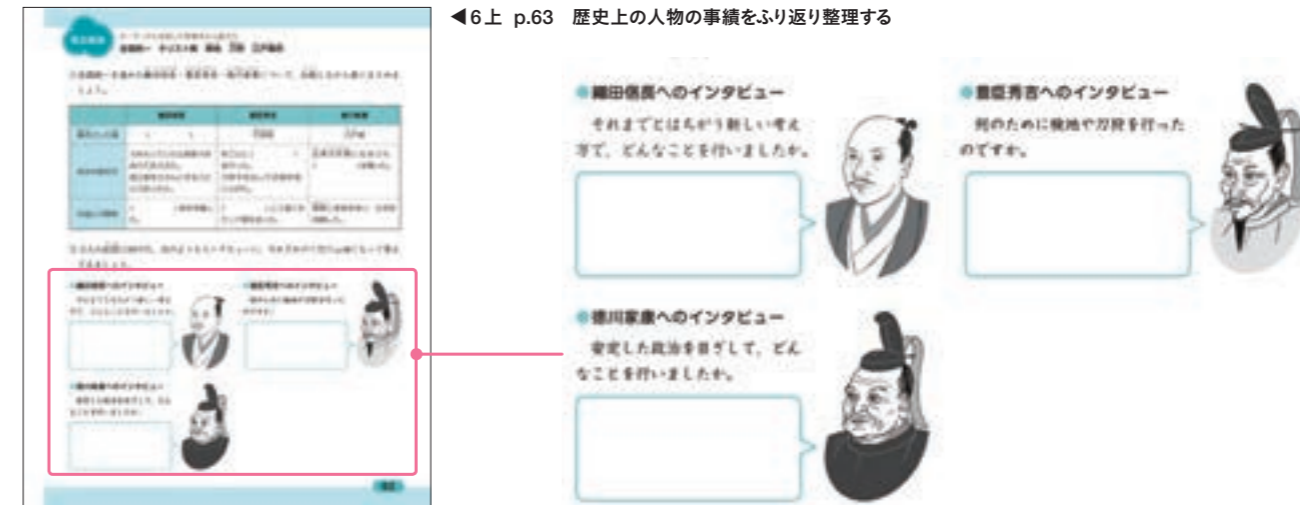


2 人物や文化遺産に重点を置いた歴史学習

時代を代表する人物や文化遺産について調べたり考えたりしながら、歴史への理解を深めます。



◀6上 p.24-25 歴史上の人物について調べ、表現する



◀6上 p.63 歴史上の人物の事績をふり返り整理する



◀6上 p.63 人物の事績を調べノートにまとめる

3 「持続可能な社会」を軸に構成した政治単元・国際単元

「持続可能な社会」のあり方について考えながら、政治の働きや世界の中の日本の役割を学習していくことで、よりよい社会の創造に参画していく意識を高めます。



▲6下 p.2-3

● 暮らしの中の政治

少子化・高齢化の問題から導入し、暮らしと政治の関わりについて考えていきます。



▲6下 p.54-57

● イスラム教とともにある暮らし

外国の人の暮らしについて調べることを通して、文化の多様性を理解し、尊重する態度を育てます。



▲6下 p.24

● 災害からわたしたちを守る政治

スマートコミュニティをめざす岩手県釜石市の復興に向けた取り組みから、新しいまちづくりのあり方について考えます。



▲6下 p.62-65

● 世界の人々とともに生きる

人々の暮らしの基盤を整えることを通して命を守り、平和な社会をめざして協力のあり方について考えます。

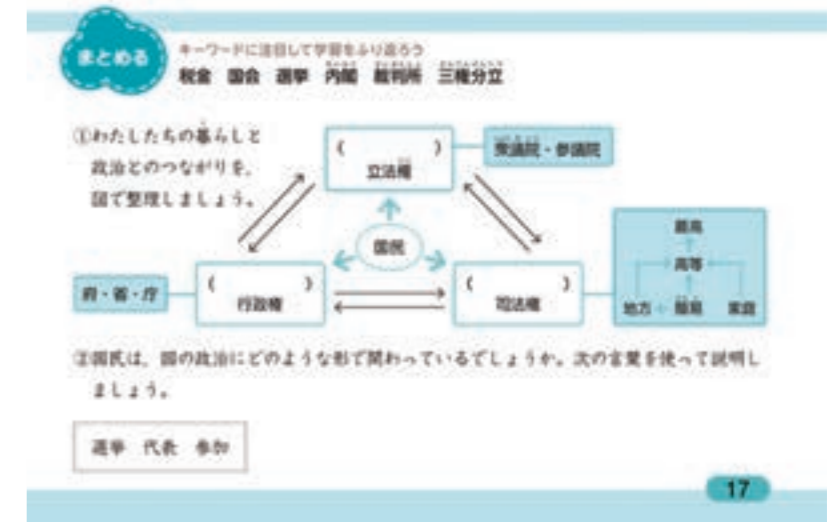
4 中学校への接続を考慮した表現活動

小学校での学習をふり返りながら、中学校で学んでいきたいことを「宣言文」にまとめる表現活動を例示しました。社会に目を向け、自らも積極的に参画していこうとする意識を、中学校へと接続していきます。

● 将来に向けて自分たちができることを考えよう



▲6下 p.78-79



▲6下 p.17

● まとめる ▶特色2-2を参照

小学校段階の基礎的・基本的な知識や概念の整理・定着を図ることは、中学校への接続という観点からも大切です。

本書の著作者

監修	有田和正 東北福祉大学特任教授	石 弘光 一橋大学名誉教授
編集・執筆	池 俊介 早稲田大学教育・総合科学学術院教授 池田芳和 東京福祉大学教授 石橋昌雄 東京都板橋区立板橋第十小学校校長 磯山恭子 静岡大学教授 植田和弘 京都大学大学院教授 白井忠雄 文京学院大学非常勤講師 内山 隆 北海道教育大学准教授 追分 充 北海道教育大学教職大学院教授 大澤克美 東京学芸大学教授 鎌田和宏 帝京大学教授 釜田 聡 上越教育大学教授 栗原 清 学習院初等科教諭 小池和男 帝京科学大学教授 小林宏己 早稲田大学教育・総合科学学術院教授 齊藤涼子 東京都江戸川区立西小松川小学校校長 坂井誠亮 北海道教育大学准教授 坂本正彦 東京都世田谷区立経堂小学校校長 櫻井眞治 東京学芸大学准教授 重松克也 横浜国立大学教授	溜池善裕 宇都宮大学教授 土屋直人 岩手大学准教授 恒吉僚子 東京大学大学院教授 寺崎千秋 元東京都練馬区立光和小学校校長 寺本 潔 玉川大学教授 長尾彰夫 前大阪教育大学学長 中妻雅彦 愛知教育大学教職大学院教授 中嶋 太 東京都青梅市立第一小学校副校長 中村昌子 東京学芸大学附属大泉小学校主幹教諭 波 巖 東京学芸大学非常勤講師 伏木久始 信州大学教授 堀 新 共立女子大学教授 堀竹 充 東京都新宿区立早稲田小学校校長 堀田龍也 玉川大学教職大学院教授 宮 蘭 衛 新潟大学教授 向山行雄 帝京大学教職大学院教授 藪田 貫 関西大学教授 山下真一 筑波大学附属小学校教諭 教育出版株式会社 編集部
校閲	伊東光晴 京都大学名誉教授	羽豆成二 前帝京短期大学講師
特別支援教育監修	名越斉子 埼玉大学准教授	

『小学社会』 教師用指導書

授業ですぐに役立つ「授業編」

- 教科書の縮刷と対照しながら、各時間の学習活動の流れや、適切な発問、指導の例が、ひと目でわかるように構成しています。

授業をより深める「研究編」

- 各時間の指導案を拡大させ、子どもの意識の流れや反応にそくして、学習活動の展開例、指導の留意点、評価の観点を一覧できるようにしています。
- 教師用指導書には、ワークシートや評価問題を収録した「授業に使えるCD-ROM」を添付しています。また、別冊として、カリキュラムや評価資料作成の手引きとなる『学習指導計画』、地域教材開発を支援する『事例実践集』を刊行しています。

豊富な映像資料で
授業を支援する

小学社会

デジタル 教科書

(第3～第6学年)



授業で役立つ工夫がたくさん!

1 ポイントがわかりやすい動画

自動車の製造過程や戦後の暮らしの様子など、理解を助ける動画を豊富に収録しました。授業で利用しやすいように短時間でポイントを伝えられる編集になっています。

2 目的に応じた拡大画面

教科書紙面内の写真やイラスト、図版はもちろん、学習課題やコラムなど、全てワンクリックで拡大表示を可能にしました。資料からの読み取り、異なったページの写真や図版などを比較させて違いを考えさせるなど、授業の目的に応じた利用が可能です。

3 変化がわかるインタラクティブ

挿絵やグラフなどを動かすことができる画面を収録しています。変化を見せて課題を提示し、考えさせるなど、興味・関心を引く仕掛けも盛り込まれています。



拡大教科書 小学社会

拡大教科書は、視覚障がいのある子どもなどにとって見やすく使いやすいように通常の教科書をもとにして、文字を大きくしたり、レイアウトをし直したりして作り変えた教科書です。



17 教出 社会 333



17 教出 社会 533



17 教出 社会 633



17 教出 社会 334



17 教出 社会 534



17 教出 社会 634

本社・支社・営業所

本社	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10	TEL. 03-3238-6811	FAX. 03-3238-6810
北海道支社	〒060-0003 札幌市中央区北3条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F	TEL. 011-231-3445	FAX. 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一生命ビルディング 3F	TEL. 0138-51-0886	FAX. 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F	TEL. 022-227-0391	FAX. 022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F	TEL. 052-262-0821	FAX. 052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F	TEL. 06-6261-9221	FAX. 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F	TEL. 082-249-6033	FAX. 082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F	TEL. 089-943-7193	FAX. 089-943-7134
九州支社	〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-11-30 クレセント東福岡 E 室	TEL. 092-433-5100	FAX. 092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F	TEL. 098-859-1411	FAX. 098-859-1411